

114  
A3416



横濱ジャツパンへラルト抄譯  
千八百七十五年十一月三日出版

日本紙幣論

日本金貨ハ輸出ノ不平均ト政府ノ外國費用  
トノ為メ流出スルヲ日ニ際シ貿易ノ事業ハ衰  
憊ノ色ヲ現シ内部議論ハ多クトナク一大國難  
(朝鮮ト戦争ヲ云フ是レ内難アルニ非レバ)ラ生スベキノ秋  
(決シテ鎮定スベカラザルモノナリ)  
ニアリ日本紙幣ガ漸次ニ高貴ノ價格(原價)ニ  
至ルハ豈亦意外トナラズヤサレバ如斯奇異  
ノ現像ノ實因ヲ討究スルハ(仮令)ハ實驗ナキ腸  
力ニセヨ看官ニトリ味ナキモノニアラザルベ  
キナリ

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈



扱右ノ一設ニ論討スルノ前ニ於テ如此事業ハ  
自身ガ信用セサル処即自カノ覺束ナキモノナ  
カラ従事セル者ヲ豫言シ買ザルベカラズ元来  
或ル緊要ナル理財ノ問題推論スルハ至テ難キ  
モノ歟ニ又事態ノ十二八九ハ外國人ガ窺測  
能ハザル如キ國ニ於テハ尚ラモ容易ナラザル  
トナリ去ナガラ地球上ノ各國ニ照シテ普通確  
的ナル理財ノ道理モアリ又其他経財ニ困苦セ  
ル他國ニ見聞スルモノモアレバ其由テ余カ  
是問題ノ趣旨ヲ推論スベシ  
尤モ斯ル問題ヲ推論スルニ於テハ先少第一ノ  
原因即チ一部分交通ノ相関々且僅ニケ所位ノ  
関涉物外國貿易ニ於テ重ナル関港場ヲ有セル日本ノ

キ因ニ於テハ外國ノ融通物ニ關係シテ自國ノ  
通貨ノ取扱ヲナスニ付テモ政府ノ手ニテ容易  
ニ管理シ得ベキトナリトノ一事ヲ以テ視セザル  
ベカラス  
然ラハ則チ外國貿易ノ以テ要スル處ノモノニ  
應スベキ程ノ金貨ガ東京ニ存在セル間ハ大藏  
省ニセヨ銀行ニセヨ紙幣ハ其原價ニテ通用ス  
ベク或ハ其以上ニモ及フベキナリ且又此ニ輕  
々看過スベカラサル一事情即チ政府ガ自ラ其  
要スベキモノニ於テ外國ニ金貨ヲ拂ハルノ事ア  
リテ斯ル場合ニハ其金貨ヲ受ルモノヨリ夫ヲ  
輸出スルナリサレバ政府ハ其金貨ヲ備ヘタル  
上ハ洋銀ヲ購買スルヲ要セサルベシ若シサモ

ナクシテ政府ガ余儀ナク金貨ヲ以テ英貨ノ為  
換券ヲ買ハサルヲ得サルナレバ必ス自國貨幣  
ノ價格ニ變更ヲ生セザルベカラザルナリ是一  
点ヨリ之レヲ看レバ政府ガ外國貨幣ニ對シテ  
自國ノ通貨ヲ交換スルニ及ハズシテ直ニ其負  
債ヲ償還シ得ベキガ故政府ガ銀位貨幣<sup>幣</sup>本位ヲ  
金貨ニ變へタルハ大利益ニテアリキ  
試ニ思<sup>細心</sup>日本ノ貿易表并造幣寮報告其他貿易ニ  
關係セル書類ヲ閱ス片ハ外國ニ輸出シタル地  
金ノ十ニ八九ハ政府外國ニ拂フベキ費用ヨリ  
生シタルナリト決論セサルベカラズ恐フニ其  
金ハ四十年前繁盛ノ世外國費用稀少ナルノ片  
ニ指シ官庫ニ貯置キタルモノカ或ハ又外國債

ヨリ生出シタルモノナルベシ實ニ紙幣ヲ發行  
シテ從前國內流通ノ貨幣ニ引換へタル事業ニ  
日本政府ハ如何ニモ穩便ニ之ヲ仕遂<sup>成</sup>得タル  
ナリ尤モ尚<sup>ニ</sup>政府ノ確然タル信用ト又内部ノ人  
民ハ首府ノ事情并ニ開港場ノ状態ヲモ(通信ノ  
不便ヨリ)聞知シ能ハザルノ事情トヲ併セ考フ  
フル片ハ紙幣ガ一般人民ノ公認スル所トナリ  
且其運搬ニ便ナルガタメ從前ノ貨幣ヨリモ之  
ヲ好ムニ至ルモ敢テ怪ムニ足ラザルナリ  
故ニ今日ノ事態ニテ引續キ而シテ政府ガ外國  
貿易ノ管理ニ得又其費用ノタメ全國ノ金  
銀ヲ場<sup>場</sup>ス<sup>場</sup>ラザレバ紙幣ハ決シテ其價格ヲ  
墮サ<sup>ル</sup>ルベキナリ如何トナレバ紙幣ヲ使用ス

ル人民ノ心ニ上リ其紙幣ハ日用ノ品物ヲ買ヒ  
得ベキ大ノ價格ヲ備ヘタルモノト想ヘル以上  
ハ紙幣ハ正金同様ニ流通ニ能フヘギナリ然リ  
ト雖モ物必ス盡期ナカルベカラズモ巨富モ  
亦竭盡スルノ片アリ故ニ一旦傾倒ノ点ニ至リ  
ナハ如何ナル理財上ノ好手段モ銀行仲間(府令後)  
見アルノ結合モ亦其下落ヲ如何トモシカタク  
ベシ昔年魯國ニテ同一ノ傾勢ヲ押止メント  
シタルヲアリ今日本ノ為ニ其一話ヲ述ベ  
曾テ魯國ニ於テ其紙幣ノ減歩百分ノ三拾ニ及  
ヒタルヲアリ千八百六十二三年ノ下ニ想ヘリ  
其時ニハタリ魯ノ朝野皆愕然トシテ各種々ノ  
方策ヲ建議モ遂ニ外債召募ノ一策ニ決シ(蓋シ

就中結果ナキ方策)英貨數百萬ノ外債約条ヲ口  
スチヤト社澳國一社ニテ世界ニ紙幣ノ價格ヲ引  
戻スニ其金ヲ用ヒタリ其手段ハ一時榮外ニ其  
功ヲ遂ケ魯政府ハ交換相場ヲ定メ忽テ其相場  
ニテ外國ノ為換モ始リ又數月ナラズニ紙幣  
ノ價格ハ殆ト原價ノ地位ニ及ビ理財ノ事業ヲ  
識別セザル人々ハ再ニ正金引取ノ期至ルベシ  
ト憶想以タリ然ルニ魯政府ハ突然容易ニ紙幣  
ヲ金貨ニ引換ヘザル旨ヲ布告セリ之ニ依テ不  
意ノ驚愕ヲ生シ紙幣ノ價格右方法一策  
ヲ金貨ニ引換ヘザル旨ヲ布告セリ之ニ依テ不  
リキ畢竟日本ハ向テ右ノ一話ヲ忠言スルハ  
一度落潮ノ來ナタル片ハ假令外國債ヲ募ルモ決

エテ其流勢ヲ止ムル能ハズ却テ其費ヲ増スモ  
モノナレバナリ又外國公債ヲ召募スルハ其召  
募ノ人ニ外リ格別ノ利益アルニ非ルヨリハ日  
本ノ如キ國ニテハ避クベキナリ  
余曾テ萬國一覽誌ヲ讀ムニ萬一土耳其政府ガ  
外國債ヲ償還シ能ハザル片ハ其抵當ニ出シ夕  
ル土國ノ土地ハ其租稅ヲ保護スルガ為メ外國  
ノ兵卒ニ取圍マルベシトノヲ發見シタリサ  
レバ日本ニテモ現今ノ如キ金貨流出ノ状態斷  
ハザルニ於テハ國ノ開明ヲ進メテ其経財ヲ保護  
スルノ外別ニ手段ナカルベシナリトテ其開明  
事業ノ結果ヲ握ル迄ニハ全國ノ人民ヲシテ赤  
貧困既ノ地ニ陥ルシムル程ノ事業ヲナスベカ

テ危殆ナルモノナリ  
テ々實ニ斯ル事業ハ國ノ廢興存亡ニモ相関シ  
此ニ由テ之ヲ視レバ金貨ニ交換サルベシ日本紙  
幣ハ墨銀ト比較シテハ銀相場ノ低下スルニ從  
ヒ其價格ヲ騰貴スベキモノナリト云ハザルヲ  
得ス減ニ二三年前ヲ回顧スレバ右紙幣ハ墨  
銀ト比較シテハ其引ケ高百分拾ナリシガ現今ハ  
其増高百分<sup>其増高</sup>貳ニ至リタリサレバ壹圓貨幣ニ交換  
スベキ紙幣ハ政府ガ本位ヲ金貨ト定メタル明  
断ノ為メ百分拾貳ニ其價格ヲ増シタルナリ  
然ラバ則チ壹圓貨幣ニ對シテ同價ニ紙幣ヲ交  
換スベキ程ニ充分ナル金貨ガ日本ニ存セル間  
ハ諸開港場ニテ墨銀ト之ヲ比較スルモ紙幣ノ

價格ハ銀相場ノ下落ニ割合ニ騰貴スベキナリ  
是論題ヲ終ハシニ臨ミ余ハ日本ガ是迄打圍マ  
レタル困難ノ事跡ヲ推考スルニ及ヒ其國ノ信  
用ト其通貨トガ能ク政府ニテ管理サレ得タルヲ稱  
賛シ且將來モ斯ル困難ニ際シ鉤ク其成功ヲ全  
フセニトテ莫望スルナリト云ハザルヲ得ス